

被災地支援で100万円

TOTOがこそだてシップへ

大船渡

住宅設備機器メーカー大手のTOTO(株)一喜多村円社長、本社・福岡県北九州市のグループ社員有志は21日、大船渡市のNPO法人こそだてシップ(伊藤怜子理事長)に100万円を寄付した。被災地支援活動の一環で、遊具などの購入費に充てられる。全国に支社を持つTOTOの社員らは、東

日本大震災直後から社内で自主的な募金活動を実施。集まった募金を使い被災地でチャリティーイベントを催すなどし、支援活動を続けていく。

今回もその一環。大船渡への支援を行うのは初めて。こそだてシップは、市からの委託を受けて同市盛町のショッピングセンター「サン・リ



この日は、同社東北支社の大久保宏司次長と同支社企画課の早川

ア」内の子育て支援センター「すくすくルーム」を運営。妊婦から乳幼児までを受け入れる中、子どもの遊び道具などの備品などが不足している状況だったことから、TOTOの社員らが支援を決定した。

悟さんがすくすくルームを訪問。大久保次長が目録を伊藤理事長へ手渡した。大久保次長は「ささやかな活動ではあるが、子どもを安心して出産し育てられる場をつくる手助けになれば」とエール。伊藤理事長は「備品の購入や人材育成などの面で費用がかかるので大変ありがたい。有効に活用させていただきまう」と伝えていた。